

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp

vol.56



2月定例議会報告 2/20 ▶ 3/14

2月定例議会が、2月20日(月)から3月14日(火)の23日間にわたって行われました。

今回、執行部から提出された議案は、『平成29年度当初予算』のほか、『子ども医療費助成条例の一部改正』(子ども医療費の現物給付の対象が中学3年生まで拡充)、『赤ちゃん誕生祝金支給条例の一部改正』(第3子以降の祝金を5万円に拡充)、『敬老祝金条例の一部改正』(100歳以下の敬老祝金の減額)など計39件。

このうち、『平成29年度一般会計予算』については修正動議が出され、木綿会館の西側に整備される『まちのお休み処』に対する観光協会への補助金987万1千円が削除されることとなりました(それ以外の議案は、いずれも原案通り可決)。

一般質問

井田市長と最後の論戦



議員による質疑・一般質問は、2月27日(月)と28日(火)の2日間行われ、中村は28日のトップバッターとして登壇。計5件の課題について一般質問を行いました。

執行部は答弁の中で、障がい者を対象とした『地域生活支援拠点』について、芳賀地域では真岡市と北部4町の2ヶ所に分けて整備することなどを明らかにしました。

なお今回は、さきに勇退を表明した井田隆一市長との最後の論戦となりました。

(中面に関連記事)

中村が行った一般質問の内容

1. 観光振興から定住促進に向けた取り組みについて

- (1) これまでの観光振興策について
- (2) 今後の定住促進策について

2. 生涯学習の施設整備について

- (1) 高齢者向けの交流学習施設について

3. 防災・減災対策について

- (1) 避難所の運営について
- (2) 指定避難所と地域公民館の役割分担について
- (3) 避難所におけるペットの取り扱いについて
- (4) 福祉避難所の指定について

4. 障がい者に対する支援策について

- (1) 障がい者に対する情報発信について
- (2) 地域生活支援拠点について

5. 教育関係の諸課題について

- (1) 教育研究所の設置について
- (2) 校務支援システムの導入について
- (3) 真岡市独自の学力調査に関連した取り組みについて

平成29年度 予算審査特別委員会

また、3月10日(金)に行われた『平成29年度予算審査特別委員会』において、中村は以下の8項目について質疑を行いました。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 地域情報通信基盤設備費(ケーブルテレビ関連)について | 6. 観光協会補助金について |
| 2. 職員研修費について | 7. 空き家バンク改修費補助金について |
| 3. 就職合同面接会事業費について | 8. 橋梁長寿命化補修詳細設計業務委託費及び橋梁長寿命化補修工事費について |
| 4. まちなか新設出店にぎわい創出支援事業費について | |
| 5. 新産業団地適地調査及び基本構想作成業務委託費について | |

賛成討論

さらに、2月定例議会の最終日である3月14日(火)、自民党議員会が提出していた修正動議(一般会計に計上されていた『まちのお休み処』に対する観光協会への補助金、987万1千円を削除するよう求めたもの)について、中村は、

- ① 施設運営は、民間事業者などを対象に一般公募の方法を取るべきであること
- ② 来場者や客単価の設定などが、整合性・合理性を欠いていること

などの理由から、賛成の立場で討論を行いました。



運営方針が白紙となった『まちのお休み処』の予定地

市民と市政のかけ橋になりたい！

☆お気軽にお声をかけて下さい。
お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。
☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！
お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を！

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜55号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日

7月30日(日)

次回の「中村かずひこ通信」は発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。



中村かずびと議会レポート

2月定例議会 一般質問

【答弁者】

井田 隆一	市長
田上 富男	教育長
野澤 雅孝	市民生活部長
佐藤 厚	健康福祉部長

質問:中村かずびと

1. 観光振興から定住促進に向けた取り組み について



質問 これまでの8年間、真岡市は観光振興に大変力を入れてきた。その結果、平成20年度と27年度を比較すると、**観光客**は人数にして**約42万2千人**、率にして**17.3%増加**している。これまでの取り組みに対する**評価と今後の課題**について、どのように考えているのか。

答弁 真岡市では、平成23年度に市民参画による『**観光ネットワーク協議会**』を組織し、既存の観光資源を活用しながら、交流人口の増加に努めた。また『**SLキューロク館**』や『**久保記念観光文化交流館**』などを整備し、各種の**体験型観光**や**中心市街地の回遊性**を高める取り組みも進めてきた。今後も、真岡市のブランドイメージを向上させるために、**全国に向けてのPR**をしていくことが必要と考えている。

質問 真岡市が取り組んできた**観光振興策**は、単に観光客を増やすだけでなく、**定住促進が最終目標**であったはずである。しかし、その点については**決して十分とは言えない**。今後、観光振興と定住促進の施策を結びつけていくためには、**何らかの仕掛けが必要**と考えるが。

答弁 真岡市では、平成28年度から**シティプロモーション**を推進するため、**新しい担当係を配置**した。これまでに、テレビやラジオの番組制作や真岡鐵道を利用してのラッピング事業などを通じて、市内外に情報を発信してきた。今後、観光振興と定住促進の施策を結びつけるため、観光の振興とともに、『**しごと**』、『**子育て**』、『**住まい**』など**暮らしに密着した情報**を発信していきたい。

2. 生涯学習の施設整備 について



質問 平成22年の時点で**コンピュータ・カレッジの跡地利用**については、①広域行政事務組合の移転先、②心身障がい児通園ホーム『**ひまわり園**』の移転先、③高齢者向けの交流学習施設という**3つの可能性があった**。しかし、東日本大震災の発生により広域行政事務組合とひまわり園の移転先に決まった。大谷台町に開設されたシルバーサロンの利用頻度の高さをみると、**高齢者の生涯学習施設整備は今後も必要**と感じる。高齢者向けの交流学習施設については、その後何らかの検討は行われたのか。統廃合が予定されている**小学校の跡地利用**として考えることもできるのではないか。

答弁 **高齢者向けの交流学習施設**については、平成24年度に開設予定であったが、**東日本大震災**の発生により、**開設時期を延期**せざるを得なかった。その後、27年2月に大谷台町にシルバーサロン『**コットンカフェin大谷台町**』を開設したところである。現在、高齢者の交流や学習は、シルバーサロンや社会福祉協議会の『**ふれあいいきいきサロン**』などで行われている。そのため、**小学校の跡地を利用**することについては、現時点では**考えていない**。

3. 防災・減災対策 について



質問 昨年秋『**全国若手市議会議員の会**』の研修会で、**熊本地震発生後に見られた課題**について話を聞く機会があった。その1つが、**指定避難所のあり方**である。大分県別府市では、防災計画の中で**学校長の位置づけが不明確**だったため、避難所運営の判断の多くを学校長に委ねざるを得ない事態となった。結果として、**体育館以外の使用が許可されず、狭いスペースでの避難生活を強いられるケースも目立った**ようだ。真岡市では、指定避難所である学校において、災害発生時の**学校長はどのように位置づけられているのか**。

答弁 現在、真岡市内にある**全小中学校(27校)の体育館**が**指定避難所**となっている。地域防災計画では、**学校長などが行うべき応急措置**として、災害状況を把握して、**県・市教育委員会への報告や、臨時休校など適切な措置**を講じて、**児童・生徒の安全確保に努めること**となっている。また、**避難所の運営**については、**必要に応じて市に協力**する役割を担っている。

質問 熊本地震で見られた課題として、**指定避難所だけで市民の受け入れを行うのは難しい**との報告も受けたところである。真岡市でも大規模な災害を想定し、市内各地区にある**地域公民館の活用**も視野に入れ、役割分担についてもあらかじめ明確にしておく必要があるのではないか。

答弁 栃木県が実施した『**地震被害想定調査**』では、**真岡市最大の被害想定はマグニチュード6.9の直下地震**であり、その際の**避難者数は避難所に8,330人**、避難所外(車中泊、テント泊など)が**5,553人の合計1万3,883人**と予想されている。それに対して、真岡市内にある**指定避難所50ヶ所**の**収容可能人数は1万7,150人**となっている。地域公民館を一定期間生活する避難所とすることは考えていない。

質問 熊本地震の際、**避難所にペットを連れてくる住民**が多く、各自治体にとって悩みの種だったようだ。茨城県常総市で洪水が発生した際にも、自宅の屋根で愛犬を抱えながら救援を待っていた住民がいたが、**ペットに対する考え方は以前と比べて大きく変わっている**。内閣府の**ガイドライン**でも、避難所での**ペット同伴のルールづくり**を各自治体に求めているが、動物アレルギーの人々もいる中で、真岡市ではどのように検討しているのか。

答弁 環境省では、災害が起こった場合、**飼い主はペットと同行避難**することを基本とする一方、他の避難者の迷惑にならないよう努めることも飼い主に求めている。**真岡市**としては、**避難所の居住スペースにはペットの持ち込みを禁止**している。そのため、避難所開設時には**屋外にペットのためのスペースを確保したい**と考えている。

質問 **福祉避難所**は、高齢者、障がい者、妊産婦などの『**要支援者**』を受け入れる避難所のことである。**熊本県内では461ヶ所**が指定されていたが、**熊本地震の際、実際に機能したのは4分の1**にあたる**115ヶ所**にとどまった。真岡市内における福祉避難所の体制整備はどのまで進んでいるのか。

答弁 **真岡市内**における**福祉避難所**については、平成27年6月に**特別養護老人ホーム8施設**と協定を締結し、現時点での**受け入れ可能人数は8施設で最大45人**となっている。今後も、耐震化やバリアフリー化などの諸条件が整った施設に対して協力を呼びかけ、**福祉避難所を増やしていきたい**。なお、栃木県内の福祉避難所は28年4月1日現在、**387ヶ所**が指定されている。

4. 障がい者に対する支援策 について



質問 真岡市では、災害発生時に市民がどのような対応をとればいいのか、**防災マップ**を発行して啓発に努めている。しかし、昨年9月に行われた定例議会の一般質問でも指摘した通り、そこに**掲載されている情報は、視覚障がい者には極めて伝わりにくい**。視覚障がい者やボランティア団体などから意見を聞き、**点字や朗読を活用**した防災マップを検討したいとのことであったが、その後の進捗状況は。

答弁 **昨年末**、市内に住む**視覚障がい者**の方々に、どのような防災マップが良いか**意見を聞いた**。その中では、コピーした時に印字部分が浮き上がる『**立体コピー機**』、特記した点を並べて絵や図を描く『**点図**』、大量の音声情報を収録できる『**DAISY(デージー)**』などの活用が考えられるとのことだった。そうした意見を参考にして、有効性のある防災マップの作成が可能か、**引き続き検討**していく。

質問 『**地域生活支援拠点**』は、障がい者が親なき後も地域の中で安心して生活するための生活相談や住まいなどの機能を兼ね備えた施設である。第4期栃木県障害福祉計画によれば、**芳賀地域では平成29年度末までに1市4町**の中で**体制を整備**することになっている。これまでの進捗状況はどうなっているのか。また、整備後の運営についてはどのような方式を選択するのか。

答弁 『**地域生活支援拠点**』の整備に向けて、これまで芳賀地域の各市町の担当者による会議を重ねてきた。その中で、各市町における福祉施設の整備状況や優先課題の違いから、**真岡市と他の4町で別々に整備**することとなった。真岡市としては、平成29年度に『**真岡市障害児者相談支援センター**』に**コーディネーターを1名配置**し、相談支援体制の強化に取り組む。また、運営の方式については、**既存の福祉サービス事業所が機能を分担**する『**面的整備型**』で進める方針である。

5.教育関係の諸課題 について



質問 芳賀教育研究所が廃止された。真岡市では平成28年度から**学校教育課の中に『指導係』を設置した**。現在、6名の指導主事が各学校への訪問指導などを行っているが、その効果をどのように分析しているのか。
また、教育分野のトータルプロデュースを行い、不登校や特別支援教育など専門性を問われる課題にも対応するため、『指導係』を**将来的には『教育研究所』に格上げする必要がある**と考える。県南6市の中で**自前の教育研究所がないのは真岡市だけ**だが。

回答 学校教育課の中に『指導係』を設置した効果として、①授業改善などの取り組みに具体的な方策を示すなど**各学校への支援の充実化**、②小学5・6年生を対象にしたイングリッシュサマーキャンプなど**研修や事業の充実化**、③児童・生徒の**諸問題への迅速な対応**などが挙げられる。
「教育研究所」の必要性については、現在、学校教育課、自然教育センター、科学教育センターに指導主事を配置し、真岡市独自の教育事業を実施している。今後も指導体制の充実を図っていきたい。

質問 現在、**山前中学校**において『校務支援システム』の**研究を自主的に行っている**。これは、出欠や成績、スケジュール管理などについて、事務作業の効率化を図ることを目的としたもので、**教員の多忙感解消に有効**とされている。
県内他市町ではすでに導入しているところが多い。**真岡市は遅れをとっている**印象を抱くが。

回答 『校務支援システム』は、出欠、成績、授業時数管理事務などのデータ集計、一元管理が可能であり、**作業時間の軽減、転記ミスの防止**といった効果がある。事務の効率化を図ることにより、教材の研究や、児童・生徒と直接関わる時間の増加なども期待できる。
真岡市では、平成31年度の導入を目指しており、総合的な研究をさらに進めていく。

質問 真岡市では、**平成29年度から小中学生を対象に、市独自の学力調査**を年2回実施する予定である。大変素晴らしい取り組みであると思うが、学力向上の分野で高い評価を受けている**県内外の自治体**では、独自の学力調査を実施しているだけではなく、子ども達が**間違えやすい分野について調査**し、調査結果を反映させた**教材の開発**まで行っていた。そこまで踏み込んでこそ、市独自の学力調査を行う意義が生まれるのではないのか。

回答 真岡市教育委員会としては、調査結果が業者から返却され次第、学習指導主任や教務主任などを対象に『**学力向上推進研修会**』を開催し、調査結果の分析をもとに、**学習指導のあり方について研修**を行う。児童・生徒1人1人に対しても、調査結果の個人票と個別対応の**復習用プリント**が提供され、より確実な学習内容の定着を図ることができる。

再質問



観光振興から定住促進に向けた取り組みについて

質問 今後の観光振興について、引き続きPRに努めていくという話だった。しかし、**PRの手法にも課題**があると思われる。これだけ物にあふれている時代で、**物だけ売り出すのは難しい**。その地域にある文化や人に光を当てていくことが重要である。**『いちご』、『木綿』、『SL』、『祭り』**ではなく、それらに**携わっている人達に光を当てる**努力が、真岡市は不十分ではなかったか。

回答 市長就任後、直ちに『観光ネットワーク事業』を立ち上げたが、この事業の大きなねらいは『**人**』だったと考えている。この事業では、自分のまちに誇りを持つという気持ちから『**マイネーム イズ モオカ**』というものも生まれてきた。結局、**自分のまちの良さを伝えるのは『人』**でしかない。今後も、**地域をアピールできる人材の育成が重要**であると考えている。

質問 **PRをしていかねばならないもの**としては『人』のほかに『**政策**』も挙げられる。今まで真岡市に観光でお越しになり、関心を持った方々に、どこまで真岡市の取り組みをアピールできたか疑問が残る。
それが**シティプロモーション**ということだと思うが、残念ながらそのための**組織体制が非常に小さい**。今後の庁内における体制強化についてはどのように考えているのか。

回答 情報を表に出すのは非常に難しい。これまでも東京に行って特産品を配布したり、冊子を配ったりということはやってきたが、なかなかPR効果は上がらない。やはり、**情報媒体を使ってアピールすることが重要**だと思う。今後、**シティプロモーション**の中で**動画を活用**しようという話にもなっているので、効果的な施策が期待できるのではないかと考えている。

指定避難所のあり方について

質問 **大規模な災害**が発生した場合、市と学校側が連携していくということは理解したが、それでも**学校長の位置づけが不明確**であるという印象を抱いた。
その点を再度確認したい。

回答 指定避難所の開設は、施設管理者である**学校長が開錠**することになっているが、災害の状況により**学校長と連絡が取れない場合**もある。そうした場合は、**災害対策本部の指示で市職員が開錠**することになっているので、早期開設に支障はない。

地域公民館の活用について

質問 先ほど、**指定避難所の予測**が示されたが、**車中泊などの人数も含まれている**ことが気になった。そうであれば、**地域公民館などの活用**も視野に入れるべきである。以前、他の議員から同じような質問が出された際、『**耐震化の問題があつて難しい**』という回答だった。では、真岡市内には**地域公民館が167館**あるが、**耐震化が図られていないのは何館**あるのか。

回答 **新しい耐震基準**に基づいて建てられた**地域公民館**の数は**把握していない**。指定避難所は十分確保されていると思うが、**1ヶ所に避難者が集中**してしまうことも予想される。そうした場合は、教育委員会との協議の上、**教室を一時的に避難所として開放**し、後日、他のスペースのある避難所へ振り分けていく。

質問 **地域公民館**における**耐震化の現状が把握**されていないとのことだが、これは避難所として活用するかはともかく、**安全面で問題**だと考える。今後、市として調査をしていく考えは。

回答 地域公民館は、各地域が管理している。耐震補強をするにしても**経費負担の問題**などが出てくる。ただし、そうしたものについては**検討材料**であると考えている。

要望

地域公民館は、市民が日頃使う施設である。

最終的に耐震化する、しないは、各地域の判断だと思うが、**把握できていないことは問題**だと思う。その点については市としてもしっかりと対応をお願いしたい。

福祉避難所の指定について

質問 先ほど、**熊本県内**の福祉避難所が全体の4分の1しか機能しなかったという話をしたが、その理由の1つとして、**福祉避難所**ということを知らずに、**一般の住民が殺到**してしまったということが挙げられる。
そういった意味からも、福祉避難所については**市民に広くPRする必要がある**と思うが。

回答 福祉避難所として指定されているのは特別養護老人ホームであるので、一般の避難者が来ることは考えにくい。周知については**今後積極的に努めたい**と考えている。

地域生活支援拠点について

質問 『地域生活支援拠点』については、『**面的整備型**』で進めるとのことだったが、では、**真岡市にはどういう機能**が確保されることになるのか。

回答 現在、真岡市内には**グループホーム**が4ヶ所。**施設入所支援を行う施設**が1ヶ所ある。加えて『**真岡市障害児者相談支援センター**』を市単独で設置しており、その相談機能を強化していく。
また、真岡市内の施設では足りない面もあるので、他町の施設にも協力を呼び掛けていきたい。

質問 今回答にあった**グループホーム**を見ても、4ヶ所で総定員が20人であり、**決して十分な数ではない**。例えば、真岡市内に**グループホーム**などを**整備する団体**が現れた場合、市としては**どういう支援**を考えているのか。

回答 市として**それぞれの法人に対して協議**をしながら、施設整備や運営の支援体制について検討していきたい。

校務支援システムについて

質問 校務支援システムを試験導入している山前中学校に、市内の他校から異動してきた先生によれば、『**山前中学校に来てから仕事が1時間半短縮されている**』とのことだった。つまり、真岡市内の大半の先生方は、**効率化が図れば省略できる仕事に1時間半も**とられているということではないのか。

回答 市内各学校への校務支援システムの導入は、**真岡市情報化計画**に則って行っている。それによれば、平成30年度にモデル校を指定し、31年度から本格導入の予定であり、この**計画に基づいて進めていきたい**。

要望

栃木県内の**14市**で、校務支援システムを導入していないのは、**鹿沼市、矢板市、そして真岡市の3市**だけである。

31年度から本格導入とのことだったが、前倒しできるのであれば、そうした方がよいと考える。

教育研究所の設置について

質問 なぜ、校務支援システムのような課題が今まで棚上げになっていたのか。それは、教育分野の**トータルプロデュース**ができていなかったからだと思う。だからこそ、**教育研究所のような存在は必要**ではないのか。

回答 **教育研究所**の必要性を否定している訳ではなく、**必要だと考えている**。ただし、今は**指導係の組織を確固たるものにし、充実した学校支援**ができるようにしていきたい。

要望

2020年には、**小学3年生から英語科の授業が必修**となる。英語教育の必要性が叫ばれる一方で、そうした時代だからこそ**国語教育に力を入れるべき**という意見もある。では、どこで折り合いをつけるか考えていくと、真岡市としての**人づくりのビジョンが必要**であり、そのためにも教育研究所が不可欠だと考える。

教育研究所の必要性は否定していないと聞き安心したが、ぜひ前向きに検討をお願いしたい。

真岡市 平成29年度当初予算が決まる

総額は**543億9,320万7千円**(前年比 7億6,180万6千円減)

平成29年度 会計別予算額

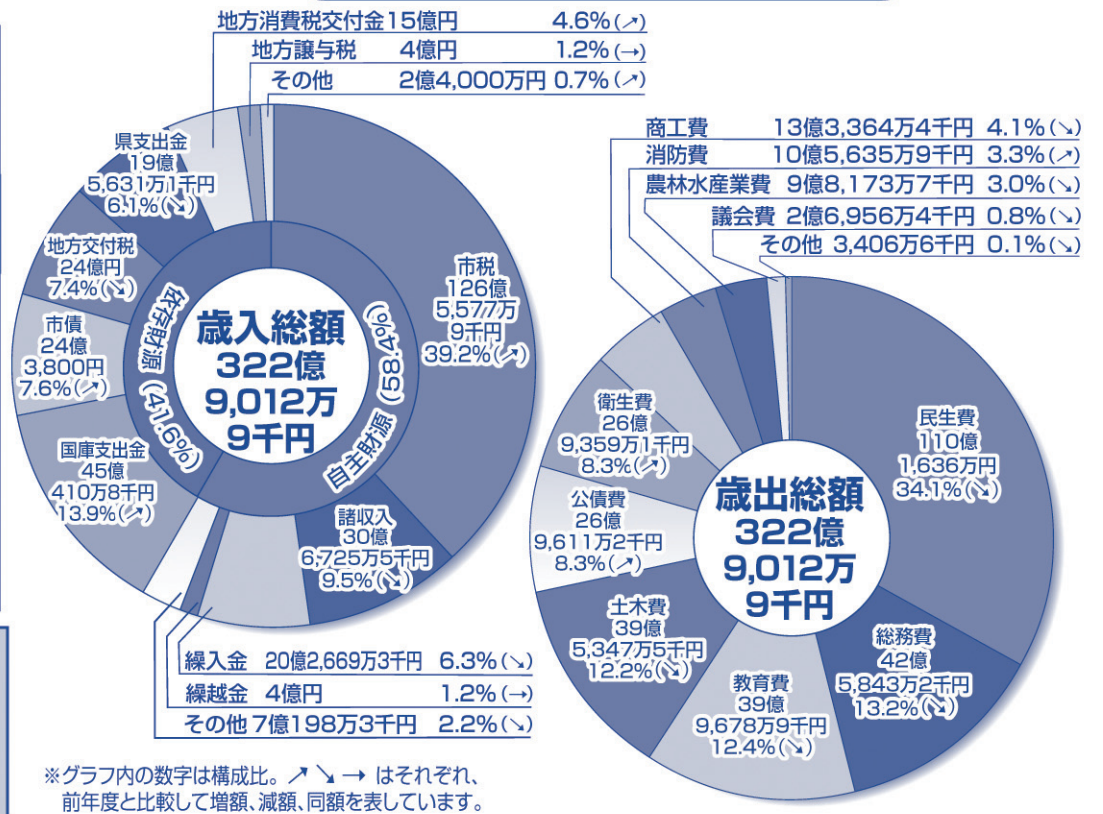
一般会計(322億9,012万9千円)の内訳

会計名	当初予算
一般会計	322億9,012万9千円
国民健康保険	107億7,368万6千円
後期高齢者医療	6億6,233万9千円
介護保険(保険事業勘定)	56億8,541万2千円
介護保険(介護サービス事業勘定)	1,093万 円
インターチェンジ周辺開発事業	3,190万6千円
公共下水道事業	21億3,159万5千円
農業集落排水事業	5億3,343万8千円
計	198億2,930万6千円
水道事業会計	22億7,377万2千円
合計	543億9,320万7千円

How much? 真岡市の市債償還予定額
(今後、市が返さなければならぬ借金)

総額 **493億8,569万8千円**
(前年比 15億4,450万5千円 減)

一般・特別・水道事業+利子含む
(平成27年度末現在)



コラム すゝむあつが

教員の多忙感解消に向けて

4月16日に告示された真岡市長選挙は、前県議の石坂真一さんが無投票で初当選を決めた。

この選挙戦に先立ち、石坂さんは5分野31項目に及び公約を掲げた。その中で真っ先に掲げていたのが、子育て環境と教育の充実であったことは何よりも評価したい。

前号のコラムでも書いたように、真岡市は県内の市の中で唯一JRの駅がない。公共交通網の弱さが泣きどころである。そうした中で、真岡市のような自治体が「選ばれるまち」になるためには、車の運転を長期間できる若年層に軸足を置くことが求められる。結論として、子育て支援や教育環境の分野でブランド化を進めることが不可欠なのである。

ただし、そうなるためには、様々な課題を克服していかなければならないと痛感する。その1つの例が「校務支援システム」である。

この「校務支援システム」は、児童・生徒の出欠や成績、授業時数、さらに教職員のスケジュールなどを効率的に管理するためのもので、今日、大きな課題となっている「教員の多忙感」解消にも有効とされている。ちなみに、県内にある14の市の中で導入していないのは、鹿沼市、矢板市、そして真岡市の3市だけである。周囲を見渡すと、真岡市は遅れを取っていることが分かる。

そうした中であって真岡市内では、山前中学校が平成23年度から、このシステムを自主的に研究している。市内の他校から異動してきた教員の話では「山前中学校に来てから仕事が1時間半短縮された」という。見方を変えれば、真岡市内の学校で働く大半の教員は、効率化さえ図れば省略できる仕事に、毎日1時間半も縛られているということになる。

学力向上、スキル教育、食育、不登校、英語教育、特別支援教育、体力向上、こころの教育等々…。今日、教育現場で取り組まなければならない課題は山積している。そのため、教育委員会はもとより、行政、議会、さらには学術界などの各方面から、新たな教育施策が次々と提案される。しかし、教育現場の効率化が進まないまま、施策が展開されるのであれば、それは、全く整理のついていない部屋に新しい家具を入れてしまい、かえって混乱を増幅させてしまう状況と極めて似ているように思う。

「教員の多忙感」の解消という課題は、一見すれば地味な取り組みかも知れない。しかし、教材研究や、児童・生徒と直接関わる時間の確保など、教員達が本来やらなければならない仕事に向き合ってもらえる環境をつくることは、極めて重要である。

ぜひとも、石坂新市長には「確かな学力の育成」や「教育環境の充実」に向けて、スピード感を持って、こうした課題に取り組んでいただきたいと切に願う。

中村かずひの活動日誌

1月	
5日	賀詞交歓会
7日	真岡市消防団出初式
8日	成人式 大谷地区冬まつり
16日	あいさつボランティア
19日	やまさわの里役員会
20日	大森豊・宇都宮大学准教授などと面会 (於:宇都宮市)
22日	真岡市民公開講座
23日	あいさつボランティア 地域生活支援拠点に関する勉強会
24日	『ひばりの会』定例会 『八月の会』打ち合わせ
25日	真岡青年会議所総会
26日	交通安全市民大会
28日	『八月の会』今、次世代に伝えたいこと
30日	あいさつボランティア
2月	
3日	真岡中学校立志式
4日	真岡市身体障害者福祉会創立60周年記念式典
6日	あいさつボランティア 臺若会計監査
7日	『ひばりの会』定例会 とちぎボランティアネットワークとの打ち合わせ (真岡自然観察会の活動として)
8日	市民会館運営審議会
9-10日	予算内示 関東若手市議会議員の会役員会・研修会 (群馬県桐生市・太田市)
10日	真岡市遺族会連合会役員会
11日	SAVE JAPANプロジェクト 『白鳥観察会&五行川クリーン作戦』 臺若総会
12日	真岡市民公開講座
13日	あいさつボランティア 議員協議会 表彰規定に関する勉強会 一般質問の通告書を提出 質疑一般質問調整会議 ※その後、担当課との接見
15日	あいさつボランティア
16日	真岡地区遺族会役員会
17日	真岡地区遺族会役員会
20日	あいさつボランティア 2月定例議会開会 議会活性化等検討委員会
21日	『ひばりの会』定例会
23日	山前中学校を個人視察(校務支援システムについて)
24日	七井松ヶ丘墓荘を訪問(『ひばりの会』の活動として)
27日	質疑一般質問1日目
28日	質疑一般質問2日目 ※この日、トップバッターとして登壇
3月	
1日	さくら市議会を傍聴
2日	民生文教常任委員会1日目
3日	民生文教常任委員会2日目
6日	あいさつボランティア 地域生活支援拠点に関する勉強会 予算審査に関する勉強会
7日	予算審査特別委員会質疑の通告書を提出 ※その後、担当課との接見
9日	真岡中学校卒業式
10日	予算審査特別委員会にて質疑 議員協議会
11日	大谷地区会計監査 若手演奏家支援事業コンサート
13日	あいさつボランティア
14日	2月定例議会閉会 議会活性化等検討委員会
15日	真岡西地区女性学級 社会教育委員兼公民館運営審議会委員会議
16日	臺若役員会
17日	大内中央小学校卒業式
21日	高根沢町長選挙告示
22日	真岡地区遺族会役員会
23日	明治大学校友会栃木県支部役員会 (於:宇都宮市)
24日	やまさわの里役員会
25日	真岡自然観察会
26日	熊倉4区総会
27日	関東若手市議会議員の会役員会 (於:東京都新宿区)
31日	行屋川桜まつり点灯式